

2021/2/28

(うと Q 世話し「デジタル・データの時代」雑感)

データの世紀といい、データ社会といい、データ経済といい、DX (Digital Transformation= デジタル (デジタル技術によるデータ処理) が齎す大変革、大変容) といい、最近データ、データのオンパレードですが、何となく又

「之って戦前の大本営発表と同じ事なんじゃないの？」

と思ったりします。

要するに反対意見が何もない「大政翼賛会」現象と申しますか、

横並び同調圧力による「反対側に就くべからず」症状と申しますか、

ブームに乗り遅れまいとする「ダッコちゃん、フラフープ」現象と申しますか (喩えが古くて申し訳ありません)

しかし、少し冷静になって考えてみると人や経済等、人間活動に関するデータというのは、もっと言えば「そのデータ上の人」というのは

- ① 完全に人が記号化されている
- ② 人間が属性別 (例えば男女別、既婚未婚別、職業別、年収別、学歴別、世代別、実年齢別、嗜好別、購入履歴別など数値化、記号化できるもの) アイテム毎に完全に切り刻まれる

事になる訳でもあります。

平たく言えば、そこに収まりきらない「生身の人間 (の全体像)」が、一部の自然科学分野を除き、社会科学分野、特にマーケティング分野では、どんどん消えていく、或いは「むしろ捉えにくくなっていく」可能性がある様な気がします。

データ活用やその権化である AI のイイ面も多々ある事は十二分に分っておりますし、我が国がデジタルやデータ活用の国際位置的には大幅に遅れており、それを速やかに catch up する必要性も大いに感じてはおります。

が、しかし、もっと長期的、もっと俯瞰的に見る視点も重要かとも思います。

これ又それを簡単に申し上げますと

「生き物としての人間、生身の人間、生活者としての人間」がどんどん消えていく、必要なくなっていく事を暗示しているのではないのか？な、と。

なので、ここは、データ活用、AI 活用は諸刃の剣である事を十二分以上に理解した上で事を進める必要がある様な気がしております。

その見極めの為の重要な判定、評価基準として、それが

「お金儲けのためなのか、それとも人助けのためなのか」

がとても役に立つ判断材料になり得るのではないかなと、思っております。

追記)

何故こんな事を申し上げるかと申せば、何の事はない、上記のデータを「お金尺度」で判定してみると

「自分や自分の会社」は、確かに今は儲かっていない「ゾンビ会社」とその責任者ではありますが、志はあるとおもっておりますので、それを無視されて「クズか、カスカ、ゴミにし
か当たらないよ、あんたら」と弾き飛ばされる事が想像されたからです。

「一寸の虫にも五分の魂」

故、そんな事をされては大いに心外であり、困ると思ったからでございます。

で、ありますので、最後に一言、

我々の住処が、今は社会の底辺、辺境と雖も

「どっこい、おいらは、生きている（おります）」

し、同時に皆様方には、それを知って戴きたくもあるのでございます。